

## 2. 交通分野

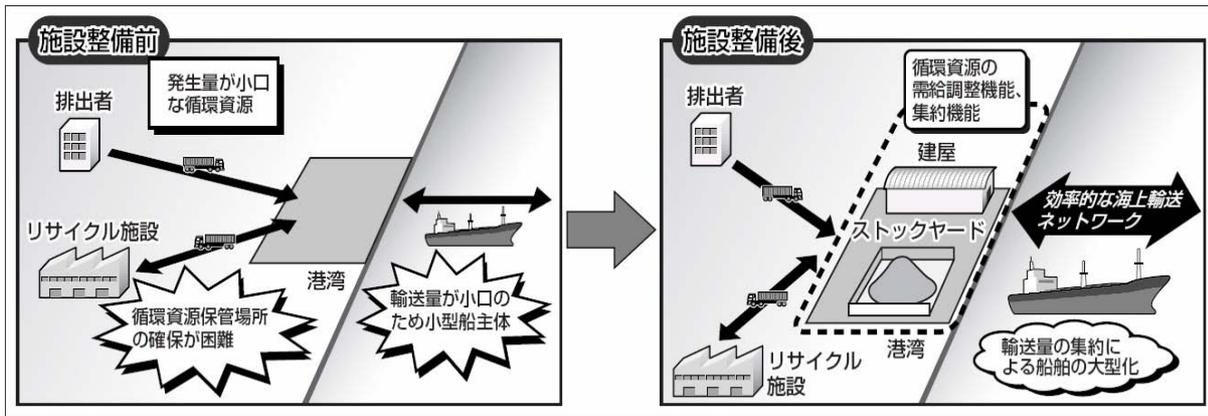
### (2) 静脈物流システムの構築 ②リサイクルポートの構築等

#### 循環資源取扱支援施設の補助制度(その他施設費) 【平成17年度創設】

平成18年度:8億の内数(国費)

平成19年度:10億の内数(国費)

- ・交付対象: 地方公共団体の出資又は拠出に係る法人(第3セクター等)
- ・補助率: 全地域1/3
- ・交付の対象となる事業  
リサイクルポート指定港において循環資源を効率的に取り扱うために、循環資源を蔵置、保管等を行う施設の整備に関する事業。



### 循環資源の海上輸送円滑化に向けた提言

- 提言1: 循環資源に係る港湾管理運用ルールの共通化  
(環境部局と港湾部局相互の連携による循環資源取扱基準の共通化)
- 提言2: 海上輸送の特性を活かしたコンソーシアム方式によるリサイクルチェーンの構築  
(排出事業者と海陸運送事業者が連携により環境への影響配慮と経済的物流管理)
- 提言3: 循環資源物流基盤の整備・拡充とリサイクル産業との連携拡大  
(循環資源物流基盤施設整備に対する支援制度の活用促進、リサイクルポート間の実証実験等を通じた需給拡大)
- 提言4: 拠点港を核とした国際循環資源物流への対応  
(国際循環資源物流の核となる拠点港の機能検討や適正管理のあり方を探る取り組みを関係省庁と連携して推進)

## 2. 交通分野

### (3) 食品廃棄物等からのバイオディーゼル燃料

#### 1. バイオマス燃料の特徴・課題

“カーボンニュートラル”



○特徴

“カーボンニュートラル”⇒石油系燃料の代替使用によりCO<sub>2</sub>削減可能

○課題

環境・安全等への影響が十分に評価されていない

#### 2. 関連施策

##### ○ 新燃料使用時の排出ガス等実態調査(H14年度～H17年度)

食品廃棄物等からのバイオディーゼル燃料を軽油中に添加した場合の排出ガスに及ぼす影響を調査

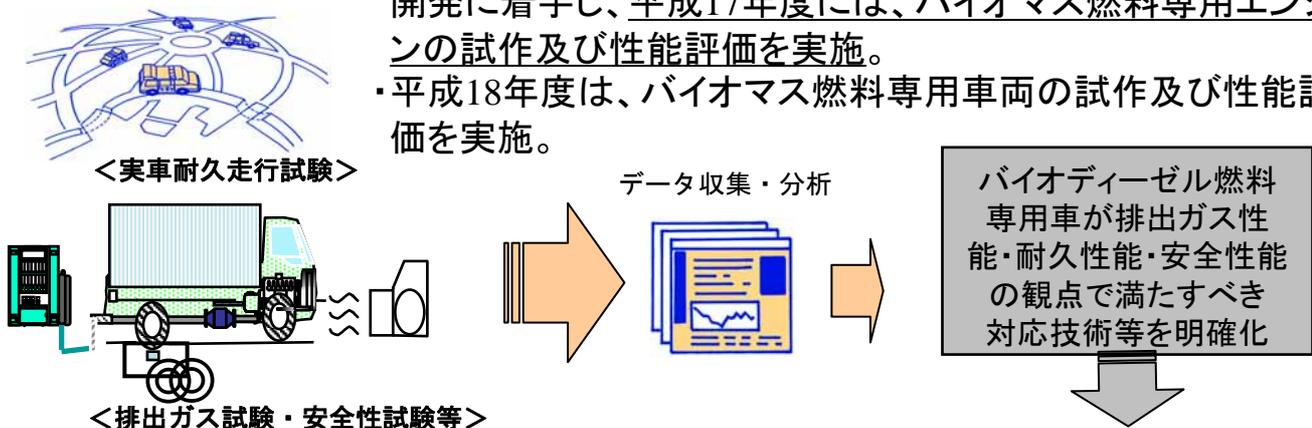
バイオディーゼル燃料を軽油に添加した場合、軽油のみを使用した場合に比べ、NO<sub>x</sub>や一酸化炭素が増加する等の課題がみられた。これらの成分については、酸化能力の高い触媒を装着することにより低減が可能。

⇒平成17年4月の中環審答申「今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について(第八次答申)」において、酸化能力の高い触媒を装着する必要がある旨徹底することが提言された。

##### ○ バイオマス燃料対応自動車開発促進事業(H16年度～H18年度)

バイオディーゼル燃料専用車を試作し排出ガス・安全・耐久性能評価を行うことにより、バイオディーゼル燃料専用車が環境・安全面で満たすべき車両側対応技術等を明確にする。

- ・平成16年度からバイオマス燃料専用エンジンの要素技術の開発に着手し、平成17年度には、バイオマス燃料専用エンジンの試作及び性能評価を実施。
- ・平成18年度は、バイオマス燃料専用車両の試作及び性能評価を実施。



バイオディーゼル燃料対応車の開発・普及促進